

1. 豪雨災害にどう備えるか

この夏、西日本での集中豪雨による災害の中で、特に愛媛県大洲市での洪水被害は、同じように町の上流にダムがあり平坦な土地に築かれた本町の防災対策について大変教訓となった。

最悪のケースとして、三保ダムが通常の放流量を超え大量の放水をした場合まさに大洲市のような洪水被害が想定される。また今回の西日本豪雨においては洪水や土砂災害がハザードマップとほぼ一致しており大規模洪水被害想定どおりとなってしまった。これらを踏まえ平成29年3月に作成された酒匂川水系酒匂川洪水浸水想定区域図では、酒匂川流域の日総雨量530mmで本町の半分以上が浸水と想定されているが、ハザードマップを見ても本町の被害は想像を超えることとなる。被害想定がされている以上害を被らない対策が必要となる。

地球温暖化により毎年日本のどこかで大きな災害が起きておりもはや想定外との言葉は通じず、いつ起きても不思議でない洪水対策について早急なる検討をする必要がある。

以上の事を踏まえ町の考えを問う。

- ① 酒匂川右岸や町内各水路の危険個所の対応は。
- ② 全町民避難勧告が出た場合の対応は。
- ③ 豪雨災害を想定した全町民を対象とした訓練の予定は。